

たばこ製造業におけるカーボンニュートラルに向けた取組について

令和7年5月28日
日本たばこ産業株式会社



目次

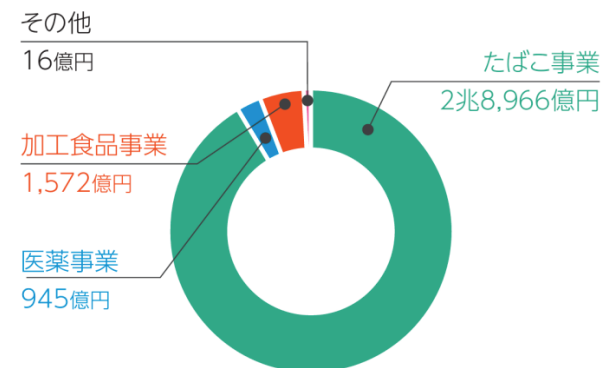
1. たばこ製造業界及び当社グループの概要
2. カーボンニュートラルに係る目標設定と実績
3. カーボンニュートラルに向けた取組等

1. たばこ製造業界及び当社グループの概要

■ たばこ製造業界の概要

業界及び業界団体の規模	
企業数・団体加盟企業数	1社
売上規模（JT単体）	売上高 5,302億円（2024年）

（参考）JTグループ（連結）売上収益：3兆1,498億円（2024年）



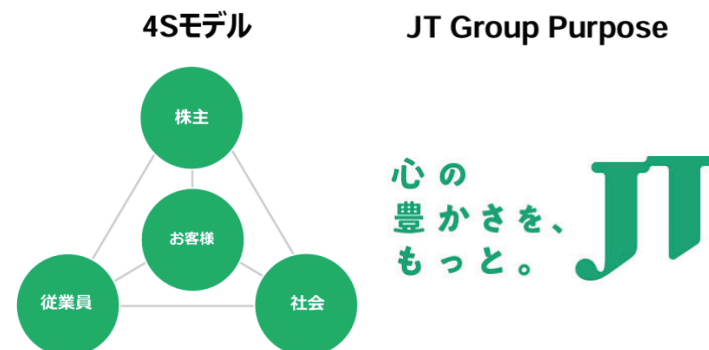
■ 当社グループの経営理念とJT Group Purpose

経営理念：4Sモデル

お客様を中心として、株主、従業員、社会の4者に対する責任を高い次元でバランスよく果たし、4者の満足度を高めていく

JT Group Purpose：心の豊かさを、もっと。

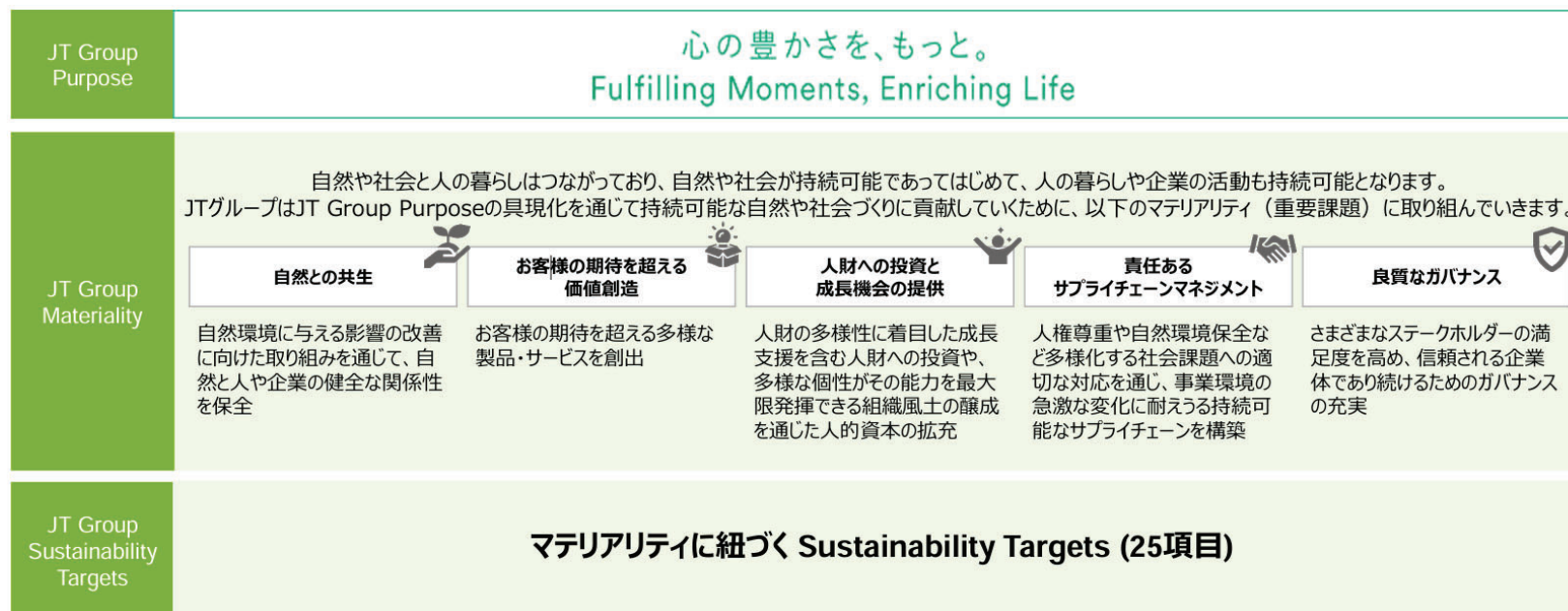
時代や人により、多様で、変化していく「心の豊かさ」の領域を、今後も社会から任され、貢献できる存在であり続ける



1. たばこ製造業界及び当社グループの概要

■ 当社グループのサステナビリティ戦略

- JT Group Purposeを起点とし、その具現化に向けて優先的に取り組む重要課題であるJT Group Materialityと、これに紐づくJT Group Sustainability Targets (25項目) により構成



1. たばこ製造業界及び当社グループの概要

■ JT Group Sustainability Targets

- JT Group Sustainability Targetsにおいて、カーボンニュートラルに結びつく、「温室効果ガス排出量の削減」「再生可能エネルギーの活用」に係る目標を設定

JT Group Sustainability Targets	 生態系影響評価の実施	 温室効果ガス排出量の削減	 再生可能エネルギーの活用
	 責任ある水資源マネジメント	 森林資源の保全	 廃棄物による環境負荷の低減
	 製品および容器包装リサイクル	 持続可能な農業	 RRP展開市場の拡大
	 リスク低減に係る科学的知見の発信	 未成年者喫煙防止対策	 FIC(ファースト・イン・クラス)医薬品の創出
	 フードインクルージョンへの貢献	 DE&Iの推進	 人財の戦略的な確保
	 働きやすい環境の整備	 心身の安全・健康の推進	 自律的な成長の支援
	 社内外との共創の促進	 サプライヤースクリーニングおよび デュー・ディリジェンスの推進	 たばこ農家の生活収入
	 児童労働を含む人権モニタリング	 グリーバンス・メカニズム	 コミュニティインベストメント
	 事業特性に即した内部統制		

2. カーボンニュートラルに係る目標設定と実績

■ カーボンニュートラルに係る当社グループの考え

- 当社グループでは、従前より省エネルギー活動や再生可能エネルギー由来の電力導入等、温室効果ガス排出量削減施策に鋭意取り組んできたところ
- 各国においてカーボンニュートラル/ネットゼロ宣言がなされる等、脱炭素化に向けた社会的要請はより一層の高まりを見せており、当社グループも改めてエネルギーおよび温室効果ガス関連の新たな目標設定と取組の加速化の必要性を認識
- この目標設定の有り方等については、国際的なイニシアチブであるSBTi(Science Based Targets initiative)による推奨を踏まえ、世界の気温上昇を産業革命以前と比べて1.5℃に抑えるための科学的根拠に基づいた目標水準とすることを志向
- 2022年には、2050年までにバリューチェーン全体で温室効果ガス排出量をネットゼロにすること、加えてそのマイルストーンとして、2030年までに当社グループ事業におけるカーボンニュートラルの達成という目標を設定し、取組の加速化を図っているところ

2. カーボンニュートラルに係る目標設定と実績

■ カーボンニュートラルに係る当社グループの目標と2023年実績

● 自社の温室効果ガス排出量

- 目標 : Scope1およびScope2の温室効果ガス排出量について、2030年までに2019年比47%削減
- 実績 : 2020年以降、目標達成に向けた削減経路に沿って着実に削減を進めており、2023年は、2019年比21%の削減
 - ✓ 2024年においても、削減経路に沿った削減を達成見込み

● バリューチェーンの温室効果ガス排出量

- 目標 : Scope3の購入する原材料・サービスに由来する温室効果ガス排出量(Cat.1)について、2030年までに2019年比28%削減
- 実績 : 2020年以降、目標達成に向けた削減経路の枠内に収まる削減を進めてきたものの、2023年は、一時的に2019年比3%の増加
 - ✓ 2024年においては、前年増加分を削減のうえ削減経路に沿った削減を達成見込み

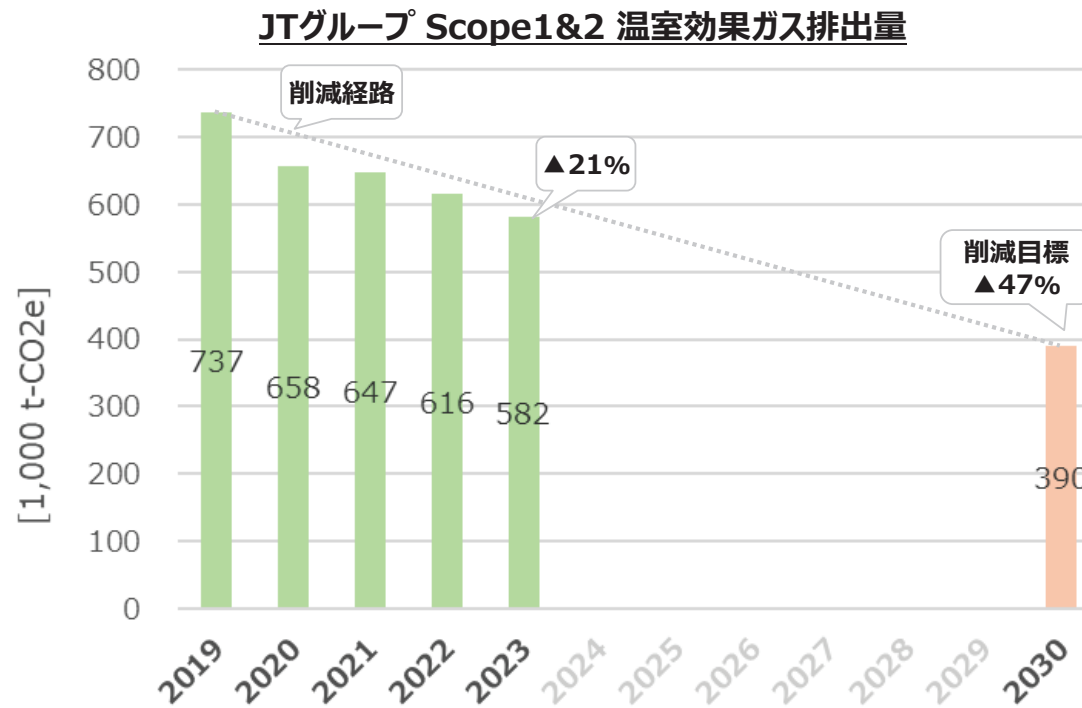
● 再生可能エネルギー電力の導入

- 目標 : 2030年までに50%、2050年までに100%を再生可能エネルギー由来の電力にする
- 実績 : 2020年以降、目標達成に向け着実に再エネ電力を導入しており、2023年は26%
 - ✓ 2024年においては、その割合が顕著に増加する見込み

2. カーボンニュートラルに係る目標設定と実績

■ 自社の温室効果ガス排出量（Scope1およびScope2の温室効果ガス排出量）

- 2020年以降、目標達成に向けた削減経路に沿って着実に削減
- 2023年は、2019年比で21%削減しており、2030年目標達成に向けた着実な進捗
 - － 2024年においても、削減経路に沿った削減を達成見込み



JTグループのScope1&2 温室効果ガス排出源

Scope1：事業所で使用する液体燃料(ガソリン・灯油・重油等)、気体燃料(都市ガス、プロパンガス等)

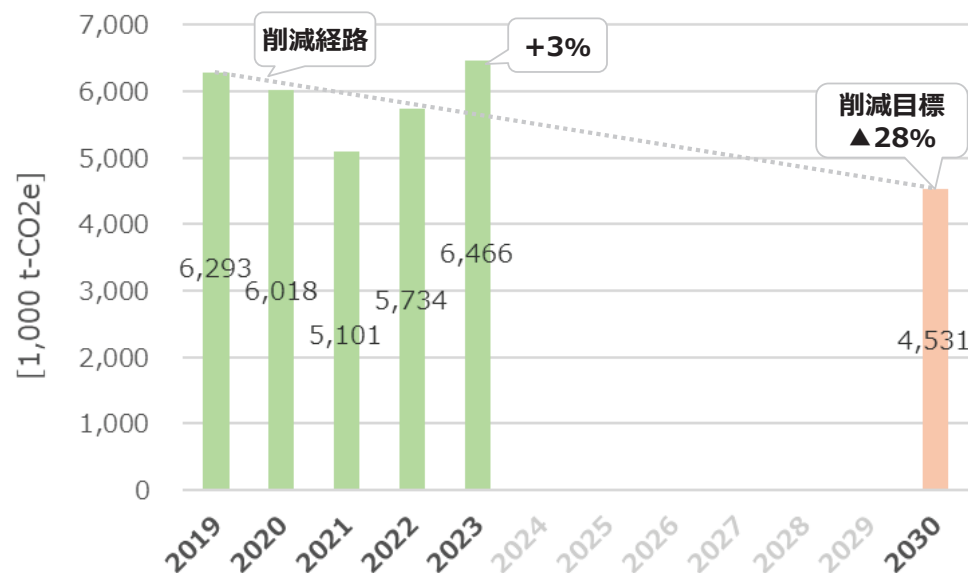
Scope2：事業所で使用する、他社（電力会社等）から供給された電気・熱の使用に伴う排出

2. カーボンニュートラルに係る目標設定と実績

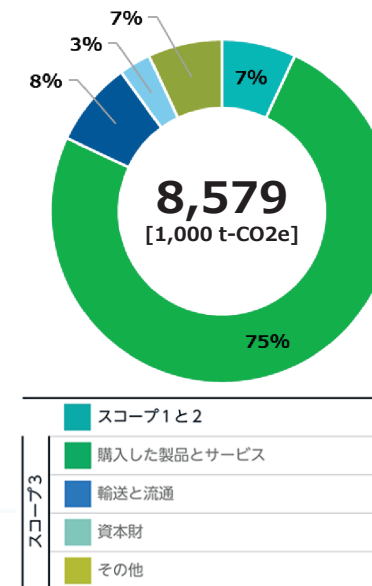
■ バリューチェーンの温室効果ガス排出量（Scope3の購入する原材料・サービスに由来する温室効果ガス排出量(Cat.1)）

- 2020年以降、目標達成に向けた削減経路に沿って削減を実施
- 2023年は、一時的であるものの2019年比で3%の増加
 - 事業量増加に加えて気象影響等により、葉たばこの乾燥工程における再生可能な燃料源への転換に時間を要している国(タンザニア等)からの調達量を一時的に増やしたことを主因として増加
 - 2024年においては、前年増加分削減のうえ削減経路に沿った削減を達成見込み

JTグループ Scope3 Cat.1 温室効果ガス排出量



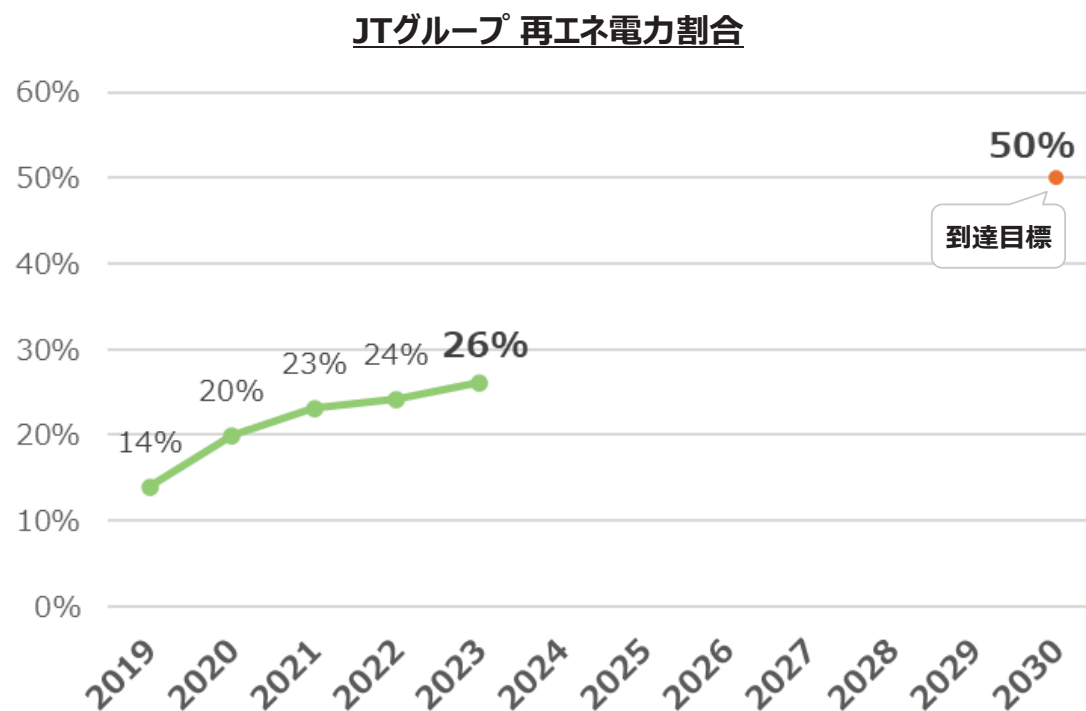
(参考)
2023年のバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量



2. カーボンニュートラルに係る目標設定と実績

■ 再生可能エネルギー電力の導入

- 2020年以降、目標達成に向けて着実に再エネ電力を導入
- 2023年は26%となり、2030年目標達成に向け、引き続き取組を推進
 - － 2024年においては、再エネ由来の電力割合が顕著に増加する見込み



3. カーボンニュートラルに向けた取組等

■ 温室効果ガス排出量削減に係る主な削減施策

- 中長期の排出量削減ロードマップの策定やその運用の強化により、目標達成に向けた各種施策を効果効率的に実行
 - － 主な削減施策
 - ✓ 再エネ電力プランへの電力契約切り替え
 - ✓ オフサイトPPAによる再エネ電力調達
 - ✓ 非化石証書・グリーン電力証書を活用したカーボンオフセット
 - ✓ 冷凍機・ボイラー等の更新、照明のLED化、空調ファンの運転最適化
 - ✓ 営業車や配送用トラックなどの業務用車両の低燃費車への切り替え
 - ✓ 照明の間引きやクールビズ・ウォームビズに基づく室温の調整

■ 削減施策に係る主な投資額等

- 工場における生産設備の改善等（当社グループ全体）
 - － 2022年：約12億円
 - － 2023年：約3.7億円
- 葉たばこ農家に対する環境負荷低減型乾燥機導入助成
 - － 2022年：3.6億円
 - － 2023年：230万円



（環境負荷低減型乾燥機）

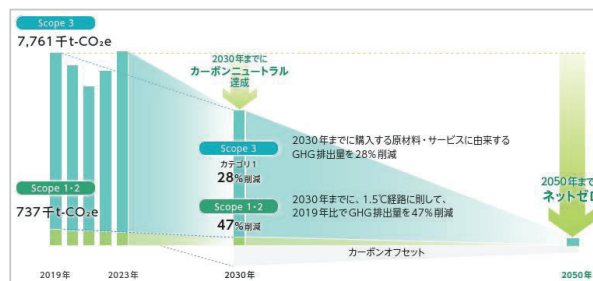
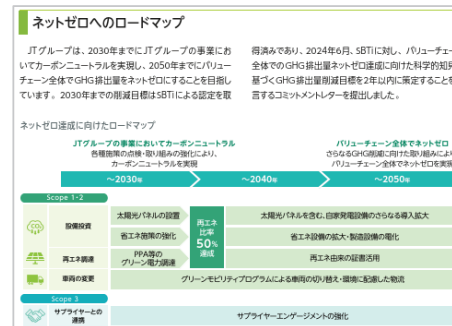
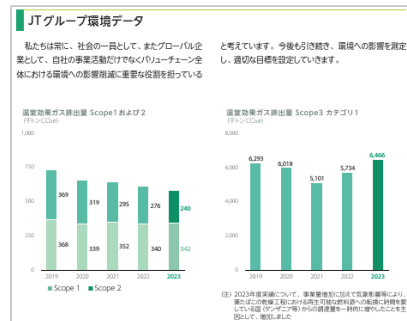
3. カーボンニュートラルに向けた取組等

■ 対外コミュニケーション／外部評価

- 統合報告書及びインターネットを通じた情報発信を積極的に実施
<https://www.jti.co.jp/investors/library/integratedreport/index.html>

- CDP※2024「気候変動」において、最高評価であるAリストを獲得（7回目・6年連続）

※ CDP: 機関投資家からの支援を背景として運営され、気候変動など環境分野に関する企業の情報開示の促進に取り組む国際NGO



(統合報告書2023より抜粋)



(CDP 2024 気候変動Aリスト)